

# 令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b> 学校は、一人一人の子どもを大切に指導や対応ができていますか。	<b>2 友達への思いやり</b> 子どもは、友だちとなかよくしていますか。	<b>3 道徳・心の教育の充実</b> 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

1. 一人一人の児童生徒の尊重は、三者ともに数値が上がった。特に教職員の「そう思う」は、昨年度に比べて14ポイント向上した。今後はさらに児童一人一人を見つめて、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」児童の解消に努める。2. 友達への思いやりについては、教職員と保護者の数値は微増したものの、昨年度同様、児童と教師の意識のずれが大きい。学校生活全般において児童の言動を注意深く観察し、必要な指導を早期に行うようさらに改善を重ねていく。3. 道徳・心の教育の充実については、保護者の数値は微減したが、教職員の「そう思う」は、昨年度に比べて33ポイント向上した。本年度の学校教育目標である礼儀や思いやりについて、道徳の時間や学校生活全般において指導を重ねてきた結果であると考え、今後も、児童の心に届く指導を全校あげて工夫していく。また、道徳の授業参観等、保護者の啓発を工夫していく。

## ②確かな学力を育む教育の推進

<b>4 意欲的な学習態度</b> 子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	<b>5 授業力向上</b> 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	<b>6 ICT活用</b> 先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

4. 意欲的な学習態度については、三者ともに数値が微減した。児童と教職員の意識のずれも大きい。その原因を見極めながら、児童が主体的に学ぶ授業づくりについて校内研修等で改善を図っていく。5. 授業力向上については、保護者の数値が微減した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1・2学期は授業参観を中止せざるを得なかったことも原因の一つと思われる。今後は、授業の動画配信等の対策を工夫していく。6. ICT活用については、保護者の「そう思う」が8ポイント減少しており、授業参観ができなかったことの影響が伺える。一方教職員の「そう思う」は16ポイント増加している。児童の集会や校内の会議・研修に積極的にICTを導入しており、教師のICT活用能力は大きく向上している。今後は、タブレット端末一人一台貸与をきっかけに、家庭学習の充実でもICTを活用して保護者の啓発を図る。

## ③健やかな体を育む教育の推進

<b>7 健康づくり</b> 子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	
昨年度同様、児童や保護者と、教職員の意識のずれが大きい。学校保健委員会や学校からの通信、保護者との電話や連絡帳等のやりとりを今後も継続し、家庭と連携して児童の健康づくりを進めていく。	

## ①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<b>8 児童生徒理解</b> 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。	<b>9 いじめや問題への対応</b> 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	<b>②特別支援教育の推進</b> <b>10 学校の支援体制</b> 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

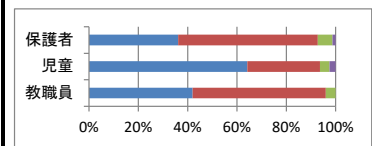
8. 児童生徒理解については、教職員と児童の、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えた数値が増減した。しかし、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」が、教職員は0なのに対して、保護者や児童は1割あることを真摯に受け止め、児童理解や保護者との連携をさらに進めていく。9. いじめや問題への対応については、昨年度と比べて数値はほぼ同じではあるが、保護者と教職員の意識のずれが大きい。今後は、児童の言動や表情を注意深く観察して悩み等を早期に察知するとともに、保護者と連携して早期に不安が解消するよう努める。10. 学校の支援体制については、二者ともに数値が上がり、特に教職員の「そう思う」が10ポイント増加した。今後は、校内支援体制や関係機関との連携を図り、一人一人の児童にとって安心できる環境づくりに努めたい。

## ①子どもたちの身近な安全対策の充実

## ②最適な学習環境の整備

### 11 安全と事故防止

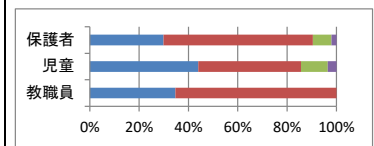
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



教職員の「そう思う」が10ポイント増加した。休み時間の過ごし方等、怪我や事故防止について共通理解を図って指導してきた成果が伺える。一方、児童や保護者の数値は昨年度とほぼ同じであった。今後も継続して指導を行っていく。

### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

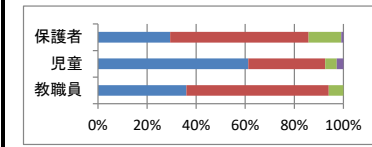


教職員の「そう思う」が18ポイント増加した。また、児童の数値も微増している。安全点検を踏まえた事後処置が適切に行われている結果だと思われる。一方保護者の数値は微減している。今後も取組を継続するとともに、改善の周知を図っていく。

## ③家庭・地域社会との連携強化

### 13 教育方針・目標の理解

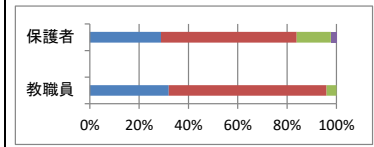
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



13.教育方針・目標の理解については、教職員と児童の数値が微増した。特に教職員の「そう思う」は19ポイントも増加した。あいさつとトイレのスリッパ並べを合言葉にして取り組んできた成果が伺える。一方保護者の「どちらかといえばそう思わない」数値は4ポイント増加している。保護者に教育方針や目標を直接話す機会が殆どなかったためであると考える。今後さらに情報発信を工夫する必要がある。14.家庭や地域との連携・協力についても、教職員の「そう思う」の数値は13ポイント増加した。学級懇談や家庭訪問等、保護者と対面して直接話す機会がなかった分、連絡帳や電話等で保護者に連絡や相談をこれまでも増して行ったことが伺える。一方保護者の数値は微減していることから、今後は、タブレット端末一人一台貸与も活用して、児童の学校生活の様子を伝えたり、家庭学習で連携を深めたりして改善を図っていく。

### 14 家庭や地域との連携協力

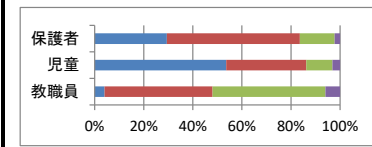
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



## ④本校の教育

### 15 明るいあいさつ

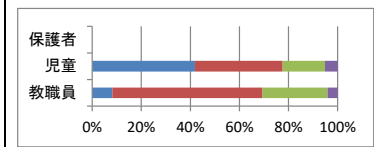
子どもは、自分から進んで明るいあいさつをしていると思いますか。



15.明るいあいさつ16.トイレのスリッパ並べについては、教職員と児童の意識のずれが大きい。児童と保護者が「そう思う」数値は、教師の数値を大きく上回っている。児童は、自分なりにできている・がんばっていると考えていることが伺えるので、その努力は認めつつ、教職員が望んでいる「あいさつ・スリッパ並べ」がどのようなことなのか、具体的にモデルを示していく必要がある。また、児童会や保護者・地域等にも協力を願って、取組の輪を広げていきたい。17.働き方改革については、昨年度に比べて、「そう思う」どちらかといえば「そう思う」が4ポイント減少した。その原因として、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校や行事の変更・指導法の変更等が生じるたびに、会議や教材研究等に時間をかけざるを得なかったことがあげられる。また、本年度に始まった給食費の会計化や学校徴収金に係る事務処理によって、慣れない作業が続いたことも原因ではないかと考える。次年度に向けて、本年度の経験を生かした校内のマニュアルや分担等を整備したい。

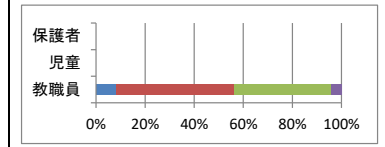
### 16 思いやり:トイレのスリッパ並べ

子どもは、自分から進んでトイレのスリッパを並べていると思いますか。



### 17 働き方改革

学校は、業務の精選・効率化に組織的に取り組み、授業づくりに時間をかけることができるようになったと思いますか。



## 来年度の具体的な取り組みについて

- ①児童一人一人を大切にしたい指導については、表情や言動等小さなサインを見逃さないようにする。悩みや困り感を早期に把握するとともに、家庭と連携して早期解決できるよう努めていく。
- ②教師の評価が落ち込んでいる「友達への思いやり」「健康づくり」と「あいさつ・トイレのスリッパ並べ」は、工夫・改善が必要である。児童会や地域、関係機関等、連携する対象を拡げながら児童の心に響く指導を行うとともに、取組の周知に努める。
- ③学力向上については、学習意欲を高める必要がある。児童が主体的に学習を進める授業づくりについて校内研修を深める。あわせて話を聴く態度等、基本的な学習態度についても指導していく。タブレット端末一人一台貸与の導入により、児童の学習環境は大きく変化することが予想される。教師のICT活用能力を高めるため、校外研修への積極的な参加や先行事例の収集と共有に努める。
- ④本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者に向けて学校の取組を周知することが難しかった。今後は、動画配信等、様々な方策を講じて学校からの情報発信に努めたい。
- ⑤教職員の働き方改革を推進するために、定時退勤日の設定、業務のマニュアル化や役割分担の明確化を図る。

## 学校関係者評価

- コロナ対応が児童同士や教師とのコミュニケーションに影響しないかと案じていたが、学校評価でも良好な結果が出ており、安心した。
- ICT活用がとてもしっかり進んでいる。指導法も日進月歩で教師は苦勞されることと思うが、諸外国に追いつく機会ととらえてがんばってほしい。
- あいさつは、個人差が大きい。心身の状況を推し量ることもできる大事なことだと思う。おとなの方から声をかけていきたい。
- 国語が、学力の基盤となる。読書を勧めるなどして国語の力をしっかりとつけてほしい。
- 学力テスト結果が市の平均を上回るように。それぞれの学年で指導する読み・書き・算を確実に身に付けさせてほしい。
- いじめ問題への対応は、保護者の「そう思う」の数値が低い。マスコミ報道が多く、不安を感じている保護者もいるのではないかと考える。学校取組を積極的に発信するなど工夫してほしい。
- 健康づくりの教職員の数値が低い。生活リズムや食に関する指導等、家庭とやりとりしながら今後も指導を重ねてほしい。
- 花が咲き野菜が育つ緑化の環境が整っている。今後も、花や野菜で児童に命の教育を行ってほしい。